

【調査の成果】

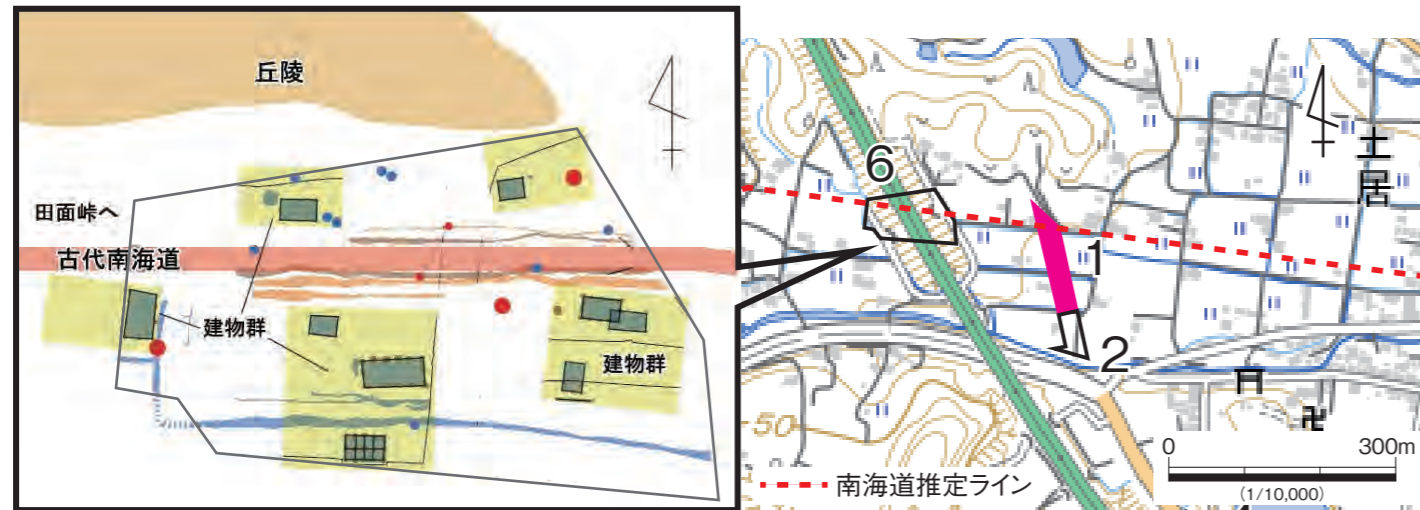
今年度の調査では、柱穴、土坑、溝が見つっていますが、建物跡は見つかりません。その理由として遺跡の立地形成にあると考えられます。中山北遺跡は河の氾濫や丘陵からの土が流れ込んだことによって砂や粘土が複雑にからみあって形成されており、それによってできた落ち込みがあります。そのような不安定な土地であるため、集落を営むには適していなかったものと思われます。ただ、土器など遺物が少量出土しているため、近隣に集落が存在したことが想定されます。古代・中世には溝が掘られており、耕作、あるいは何か区画するなどのために土地が利用されていた可能性が考えられます。

また、昨年度の調査で1区から縄文時代の竪穴建物跡が見つかりました。今回の調査では、竪穴建物跡より北で縄文時代の遺構がどの程度広がっているのかを確認しました。1区で竪穴建物跡が見つかった地面と同じ地面で竪穴建物跡は見つかりませんでしたが、柱穴群が見つかり何らかの建物が存在していた可能性があります。さらに縄文土器やサヌカイトが出土しています。2区の南半の地面は2区北半から5区に比べ固くしまっており安定していることから、中山北遺跡では2区の南半まで縄文時代の人々の生活の場であったと考えられます。

【南海道について】

南海道は古代において都と地方を結んだ道路のうちの一つです。古代の道路の特徴として、直線的であること、道路の幅を明示する施設(側溝など)を有するか、幅を明示する構造を採用していること、一定の道幅を有することがあげられます。ただし、一部の区間では道路が屈曲、蛇行するなど、必ずしもこれらの特徴を一律に備えているとは限りません。

中山北遺跡は坪井遺跡と同じく南海道推定ラインの延長線上にある遺跡で、古代官道の敷設に関する遺構があると想定して発掘調査を行いました。しかし、中山北遺跡では坪井遺跡で見つかったような道路側溝は検出されず、建物跡も見つかりません。なぜ見つからないのかは定かではありませんが、当遺跡を迂回するように道路を屈曲させたか、あるいは後世の土地改良によって道路が削平されたか、ということが考えられます。



坪井遺跡道路側溝跡

香川県埋蔵文化財センター

〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4

TEL 0877-48-2191

FAX 0877-48-3249

<http://www.pref.kagawa.jp/maibun/>

なか やま きた

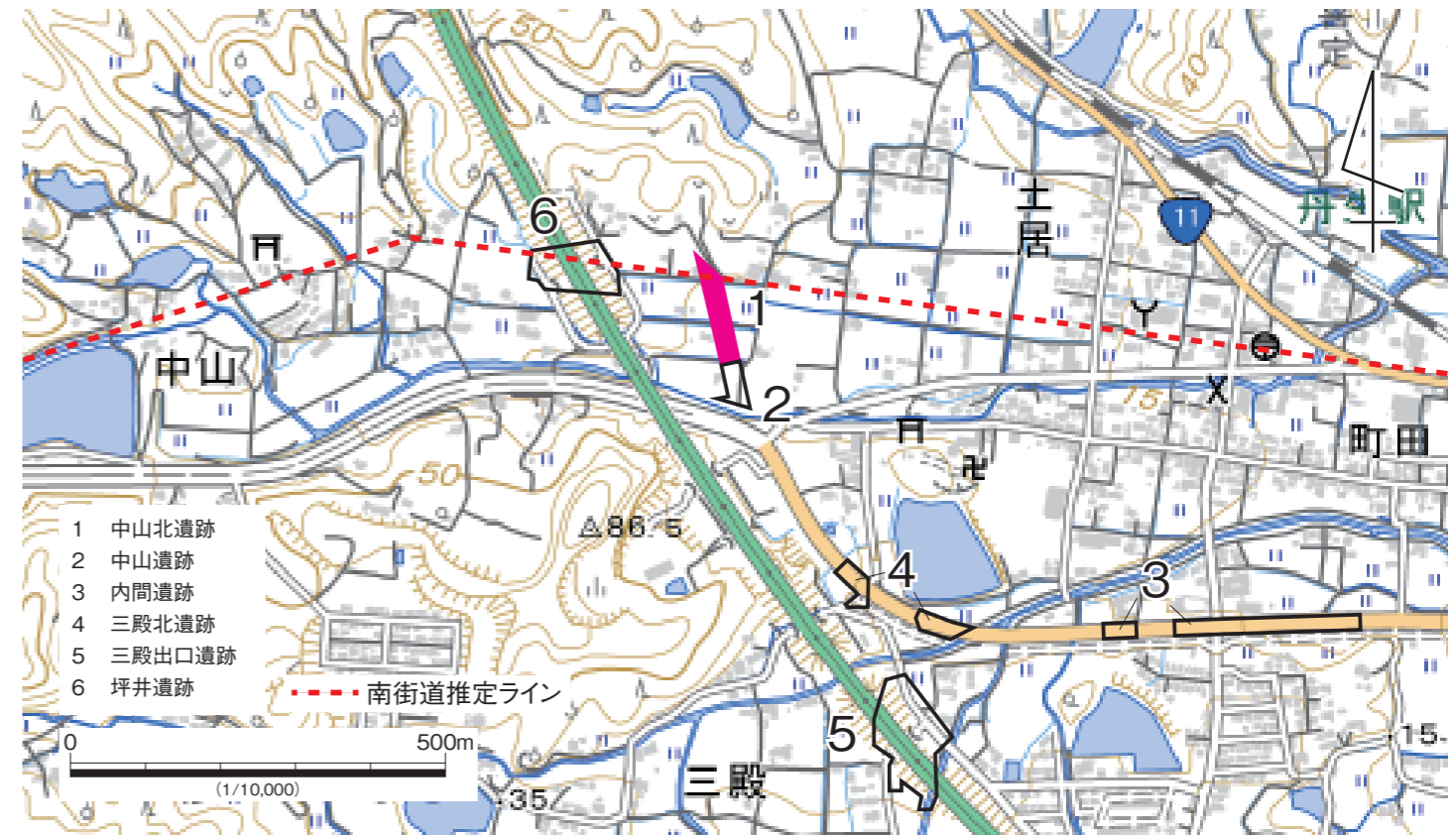
中山北遺跡 現地説明会資料

令和5年12月16日(土)
香川県埋蔵文化財センター

【はじめに】

中山北遺跡は東かがわ市中山に所在する遺跡で、香川県埋蔵文化財センターが令和4年度から国道11号大内白鳥バイパス建設に伴って発掘調査を実施してきました。

今年度は昨年度発掘調査をした1区の北から丘陵の裾部にわたる1,882㎡を発掘調査しています。調査の目的として、この遺跡を通ると想定される古代の官道「南海道」に関連する遺構の有無と、1区で縄文時代の竪穴建物跡が見つかり、縄文時代の痕跡がどの程度広がっているのかを確認することにあります。

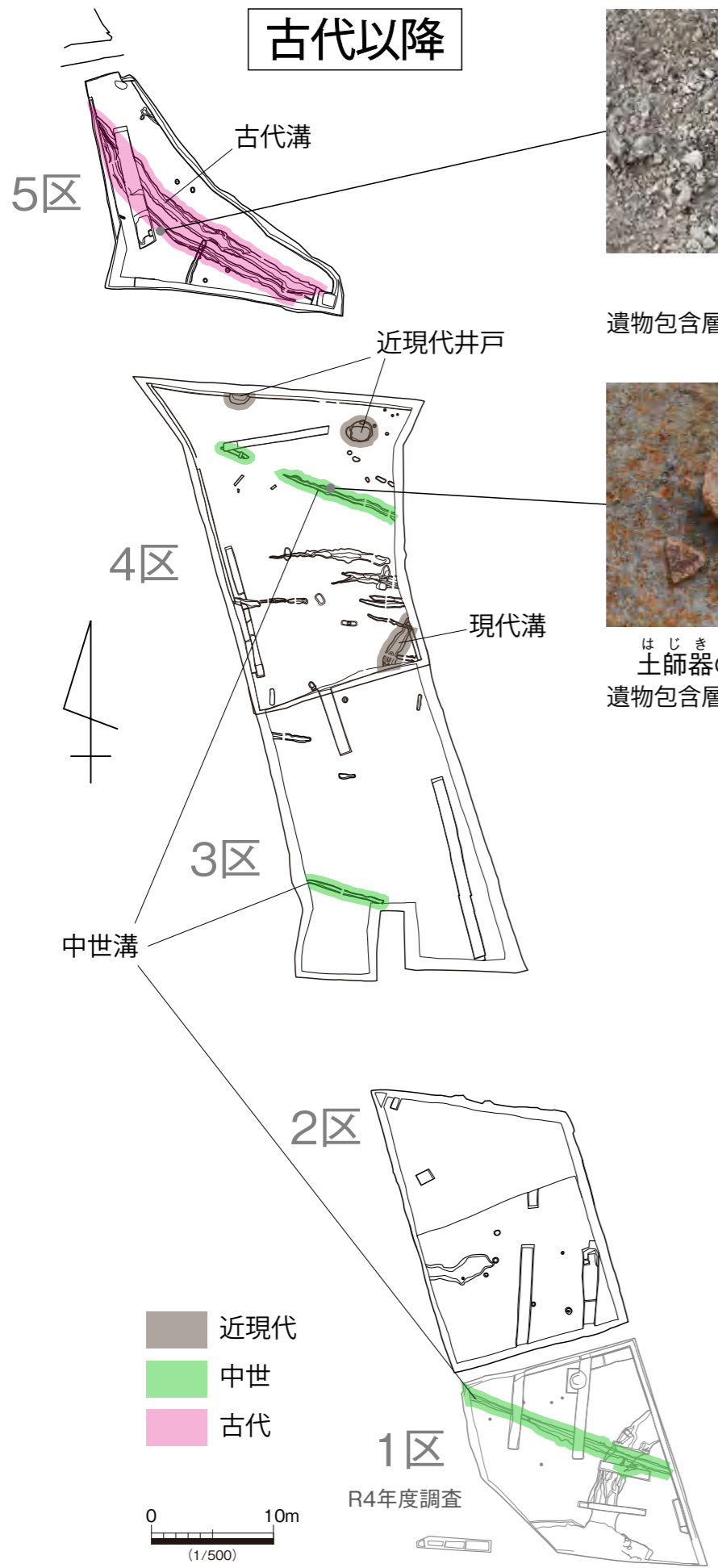


中山北遺跡とその周辺 (国土地理院地図/GSIMapsの一部に加筆して作成)

【周辺の遺跡】

中山北遺跡の周辺には、中世の生産遺跡や鎌倉時代から江戸時代の旧河道があった中山遺跡や弥生時代・古代・中世の集落跡である内間遺跡、古代から中世の集落跡である三殿北遺跡、江戸時代の砂糖生産に使った竈が見つかった三殿出口遺跡など、様々な時代の遺跡が存在しています。

また、大内平野内を東西に横切る古代の官道「南海道」が国道11号線北側に想定されており、これを西に延ばすと坪井遺跡に達します。実際にこの遺跡では平成10年度の四国横断自動車道建設に伴う発掘調査で、奈良時代の5つの建物群と東西に並行する溝状遺構などの遺構群が検出されています。これが南北両側に側溝を持つ幅8～10メートルの道路(南海道)であると判断されており、この遺跡が官衙関係の遺跡であった可能性が指摘されています。



せきぞく
石鋤
遺物包含層より出土。時期は不明。



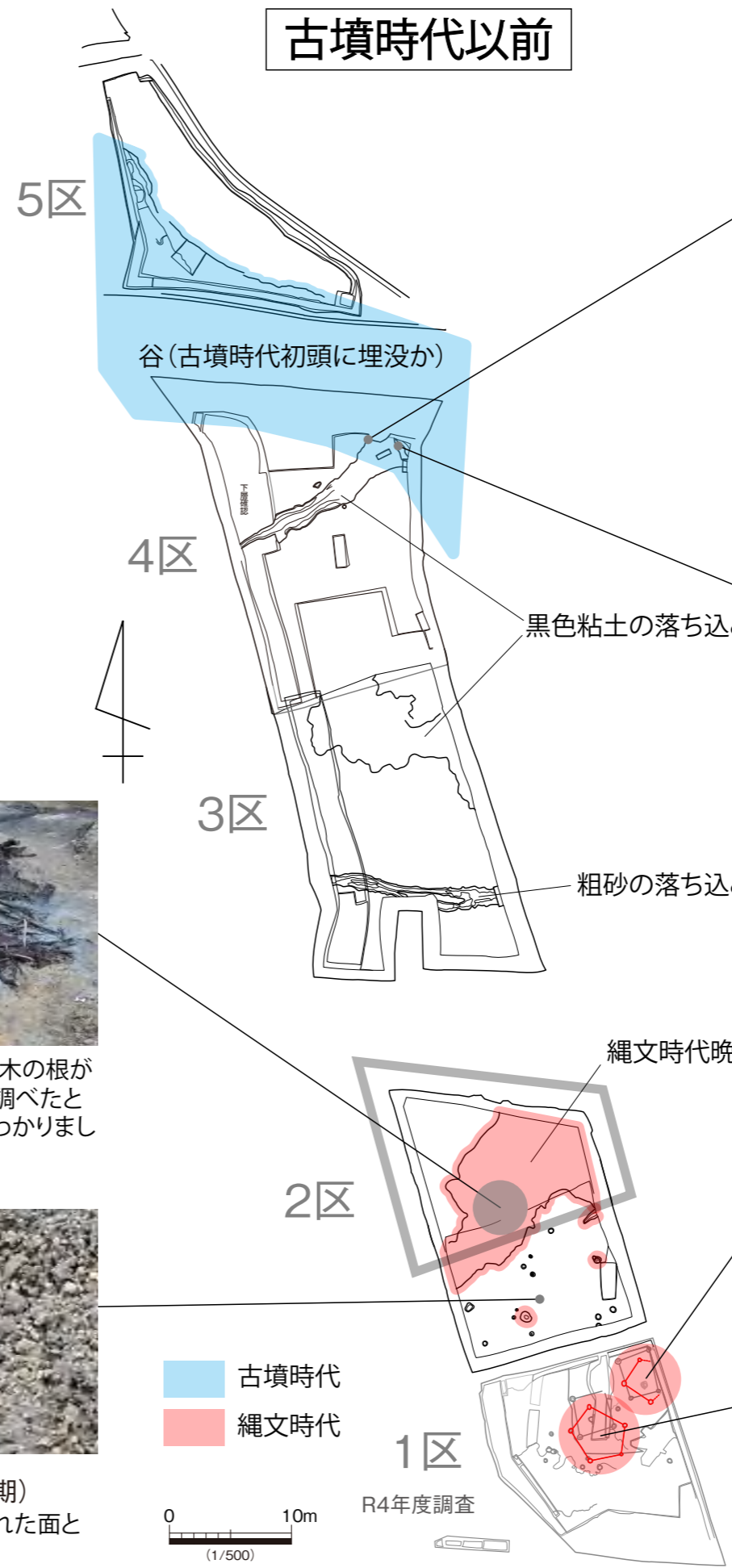
はじき はち
土師器の鉢(古墳時代初頭)
遺物包含層より出土。



流路で検出された木です。木の根が広がっていました。樹種を調べたところクスノキであることがわかりました。



せきぞく
石鋤(縄文時代晩期)
縄文時代の柱穴が検出された面と同じ高さで出土しました。



はじき かめ
土師器の甕(古墳時代初頭)
4区の落ち込みの肩のあたりから出土しました。1個体分の土器が上からの土圧でつぶされたような状況でした。この土器は土師器の甕で、古墳時代初頭のものと考えられます。



はじき かめ
土師器の甕(古墳時代初頭)
落ち込みの黒い粘土を切り込むように入っている砂の中から出土しました。この土器も土師器の甕で古墳時代初頭のものと考えられます。



竪穴建物跡(縄文時代晩期)